

令和 2 年 4 月 29 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02890

研究課題名（和文）逆向き設計論にもとづく英語科授業デザインの理論的実践的研究

研究課題名（英文）A theoretical and practical study of English class designing based on Backward Design

研究代表者

田中 彰一（Tanaka, Shoichi）

佐賀大学・教育学部・教授

研究者番号：80197425

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、英語によるコミュニケーション活動開発のために、逆向き設計論にもとづく授業開発のあり方を理論的実践的に研究した。特に、逆向き設計論を実際に採用して授業開発を進めている佐賀県中学校英語研究部会の「佐賀メソッド」の取り組みを検証した。この検証により、逆向き設計論が英語科授業デザインとして有望であり、「英語による言語活動」を「タスク」として開発することが推奨されることを示した。そうすることで、意味のあるコミュニケーション活動を設計することができるようになるという提言に到達した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、第二言語習得研究への学術的な貢献として、また2020年度から順次実施される次期学習指導要領の英語教育改革への貢献として位置づけることができる。「資質・能力」を育成するために、思考力・判断力・表現力を養成するために英語による言語活動をどのように開発すればよいのかの観点から研究を行った。今や「知識・技能」を教え込む授業では学習を起こすことができないので、動機づけられた意味のある言語活動開発は英語教育において必須のものである。以上から、研究報告書『英語授業の改善に向けて』として編集・製本し社会的に活用できるようにまとめた。

研究成果の概要（英文）：I studied English activity planning in classroom based on Backward Design and it is concluded that backward design of class lesson is one of the promising methods for developing a new approach to English education in Japan. The conclusion is supported by an analysis in which English class is planned backward to achieve the goal and its language activity should be designed as "task". This analysis leads to a hope that such a design will build a thought evoking communicative activity for students to enjoy and complete autonomously in English.

研究分野：英語教育

キーワード：逆向き設計論 パフォーマンス課題 タスク 佐賀メソッド 英語科授業

1. 研究開始当初の背景

本研究開始の平成 29 年度においては、次期小学校学習指導要領の告示が行われ、小学 4、5 年の高学年において教科としての外国語科が(中学年では外国語活動(領域)が)開始されることが決定した。そのため、教科としての英語の授業が 2 年後に本格実施となる状況において、関係者には授業で中心となる言語活動をどのように組み立てればよいのかの疑問があった。ゆくゆくは中学校の学習課程に接続させるという課題も見込まれていた。外国語活動の約 7 年間の実践、小学校教員への英語科授業ための研修の機会や小中連携の講座などの取り組みはあったものの、どのように教科としての外国語科(英語科)の授業を設計すべきなのか、評価はどうするかなどの課題が指摘されていた。一方で、これまでの学力観の見直しが行われ、アクティブ・ラーニング型の授業でなければ、児童・生徒・学生は学びをしないのではないかという考察が進んでいた。単に学習者の変容だけでなく、社会的な要因の研究による指摘も出ている。次期学習指導要領における「資質・能力の育成」はそのような社会意識を反映させたものだと考えられる。

本研究は、そうした中で、どのように英語科授業を設計すればよいのかの観点から、「逆向き設計論」の視点を取り入れ、次世代の授業設計と評価の取り組みを分析・検討し、新しい教育課程にも資するような英語授業のつくり方を検討すべきではないかの着想からスタートした。すでに佐賀県中学校英語研究会で、時代の要請に応えるための授業設計論を取り入れた授業開発の必要性が意識されており、「三神メソッド」から「佐賀メソッド」へと名前を変えた授業構成論の中に逆向き設計論のアイデアが取り込まれる時期となっていた。そのため、地方での設計論の取り組みが一般的に共通した授業設計として展開できる側面もあった。しかしながら、現場の指導者に授業設計のアイデアが十分に理解されて日々の授業に活かされているかどうかには課題があり、また、働き方改革が示すように、授業担当者・英語指導者の時間的労力的な問題もあって、英語科授業デザインの理論的実践的研究が必要となったのである。

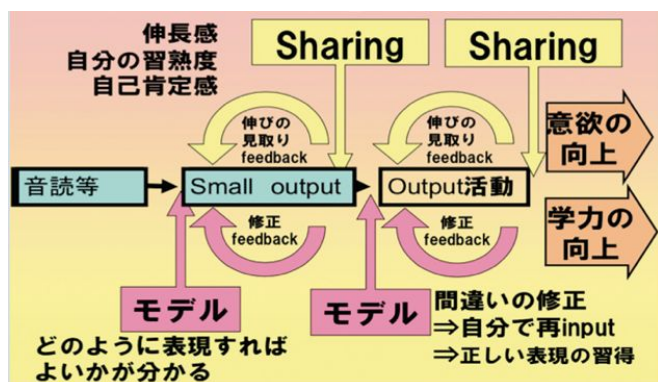
2. 研究の目的

本研究「逆向き設計論にもとづく英語科授業デザインの理論的実践的研究」の目的は、上記のように、英語科授業を「逆向き設計論」で組み立てるためにはどのように取り組むかの理論的実践的な研究を行うことにより、よりよい授業設計を可能とし、それにもとづき英語科の授業改善を行うことである。

実践的研究については、佐賀県中学校教育研究会英語部会により進められている英語授業構成論である「佐賀メソッド」の実践授業に具体指導助言をしていくことで研究を進めながら、上記の目的を達成する計画である。特に、英語授業における手法のポイントとなっている Small output 活動を実践的に活用するための基本的な知識・技能の指導効果を検証する。この検証により、平成 25 年 12 月に発表された「グローバル人材育成のための英語教育改革」に対応することができる中学校英語授業を開発するための授業構成改革案を提示することができると考えられる。この研究側面は、逆向き設計論にもとづく地方発信の佐賀メソッドが、今後の英語教育改革にどのように貢献できるかを示すことにもなる。また、その可能性の領域を明らかにすることも目的とした。

3. 研究の方法

理論的研究においては、これまでの先行研究を精緻化し、さらなる研究資料の収集を進めることで研究を充実させることができる。特に学会における課題毎の論点整理を確認し分析する。実践的研究においては、これまでに整理している課題として、(i)「佐賀メソッド」の方法論の確立と設計の基本、(ii)パフォーマンス課題の違いによる Small output 活動技法対応の解明、(iii)授業開発としての「佐賀メソッド」による実践授業研究がある。以下の図のように、佐賀メソッドの授業設計モデルは早くから提案されているので、そのモデルの学習過程(=授業の流れ)における課題を整理して授業実践の具体的な改善の提案を行う。そうすることによって、理論と実践の整合性を吟味する深い理解へとつながると考えた。



具体的には、このモデルの Small output 活動における技法の 4 つの型の理論的な根拠の解明、Output 活動を逆向き設計のパフォーマンス課題として取り組む方法が主な議論となる。

平成 29 年度は、上の理論的研究の資料収集と脳科学や学習心理学の関連研究を確認し、平行して実践研究の取り組みを、附属小中学校や協力校を訪問し、そこで指導助言を行って進めることとしている。平成 30 年度は、以上の方法の検討と課題の整理、平成 31(令和元)年度は

研究のまとめのための報告書作成のための編集作業を行いながら、課題と成果の評価を進める。このような方法により、3年間の研究によって、逆向き設計論の理論研究を充実させ、第二言語習得研究による知見と照合して、逆向き設計論を深め、「佐賀メソッド」の理論的基盤を確立する。さらに、授業研究として行われる佐賀県及び全国の英語科授業研究も参照することで、Small output 活動技法を応用実践できる一般性を検討する。そうすることによって、実践的研究を深める。また、英語科授業開発としての「佐賀メソッド」の方法論を確立して研究の貢献度を上げる計画である。

4. 研究成果

本研究は、英語によるコミュニケーション活動開発のために、逆向き設計論にもとづく授業開発のあり方を理論的実践的に研究した。逆向き設計論を実際に採用して授業開発を進めている佐賀県中学校英語研究部会の「佐賀メソッド」の取り組みを検証することで、教育実践と照合しながら理論的な検証と考察を深めることができた。この検証により、逆向き設計論が英語科授業デザインとして有望であり、「英語による言語活動」を「タスク」として開発することが推奨されることを示した。以上にもとづき、意味のあるコミュニケーション活動を設計することができるようになることを示した。

平成25年の「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」において大綱が示され、平成29年告示の『小学校学習指導要領』に沿って、小学校高学年において教科である「外国語科」が今年度よりスタートする。合わせて、中学校においても資質・能力の育成を目標に学力の見直しが図られている。英語の資質・能力を構成するのは「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、そして「学びへの姿勢」の3つとされ、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、学ぶ意欲・態度を学力として見る。特にどのように学ぶのかにおいては、学習者の能力をリアルな場面状況において実際に発揮しながら学ぶことが求められている。本研究は、そのような方向性に注目し、英語科授業のデザインに「逆向き設計」をどのように取り込むかについての一提言である。

本研究は、第二言語習得研究への学術的な貢献として、また次期学習指導要領の英語教育改革への貢献として位置づけることができる。「資質・能力」を育成するために、思考力・判断力・表現力を養成するために英語による言語活動をどのように開発すればよいのかの観点から見る場合、今や「知識・技能」を教え込む授業では学習者に学びを起すことができないので、動機づけられていて・意味のある言語活動の開発は英語教育において必須のものである。

以上の通り、本研究は、科学研究費補助金(基盤研究(C))の支援によって行った研究活動により目的を達成することができた。特に、理論的研究の成果のひとつとして、以下の対照図を指摘しておきたい。これは、現在行われている主たる授業設計研究と佐賀メソッドの対応関係を概観できるようにしたものである。

タスクの観点	「佐賀メソッド」における単元授業設計	逆向き設計論の観点
裏付けはインタラクション仮説 プレタスク ⇄ フォーカス・オン・フォーム 「タスク」 ・現実的でリアルな目標達成 ・目標達成のための英語使用 ・英語表現は生徒自身の選択 ・生徒の主体的判断 言語形式の指導(ポストタスク)	音読 ↓ ... (帯活動, 小課題, exercises) ↓ モデル→Small Output 活動 PD, Q-Making, RBL&W, Repro&CW ↓ Sharing ↓ モデル→単元ゴールの Output 活動 ↓ Sharing ※プロジェクト活動(学期ごと) 年度計画, 学年進行の目標(学期ごと)	裏付けは「真性の評価」論(構成主義) 逆向き設計とは 目標の確認、 評価方法の決定、 言語活動の制作 パフォーマンス課題(パフォーマンス評価) ・単元の重点目標 ・「本質的な問い」 ・「永続的理解」

本研究は、研究報告書『英語授業の改善に向けて』として編集・製本し、社会的に活用できるようにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 田中彰一	4. 巻 第3集第1号
2. 論文標題 『佐賀メソッド』と次期学習指導要領：英語教育における資質・能力	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐賀大学教育学部研究論文集	6. 最初と最後の頁 67-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 林裕子、田中彰一、他	4. 巻 36
2. 論文標題 アクティブラーニングによる「小学校英語活動」のカリキュラム開発研究 逆向き設計論にもとづいて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育大学協会研究年報	6. 最初と最後の頁 285-295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中彰一	4. 巻 第4集第1号
2. 論文標題 英語教育における「逆向き設計」論の意義と課題 「佐賀メソッド」をタスクで読み解く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐賀大学教育学部研究論文集	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

以下のタイトルで、
『英語授業の改善に向けて』令和2（2020）年3月
科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書（課題番号 17K02890）
「逆向き設計論にもとづく英語科授業デザインの理論的実践的研究」
平成29年度～令和元年度
研究代表者 田中 彰一
を製本し配布。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----